

九州民放クラブだより

熊本県民テレビ見学と観月会

下田 和喜(RKK)

今年度の活動「施設の子供たちの放送局見学」は、新社屋に移転して1年となる熊本県民テレビさんの協力を得て「母子生活支援施設はばたきホーム」の子供たちを招待しました。

8月7日(火)13時30分から、はばたきホームの小学生3名と中学生1名、引率者3名の7名が参加、熊本クラブからも理事7名が同行しました。見学者用に制作されたVTRを視聴した後、テレビスタジオやテレビマスターなど局内の施設を見学、最後に2階受付



テレビマスター見学中の子供たち

ロビーで参加者全員の写真を撮り終了しました。

放送局の見学で子供たちの視野が広がり夏休みのよき思い出になったら：と願う取り組みでした。

観月会は九州民放クラブ熊本の本の2階和室(花・月)で10月13日(木)18時から開催、満月の夜の宴を18名で楽しみました。



講話中の井上佳子さんと参加者

会の始まりは熊本放送テレビ制作部の井上佳子さんの講話です。

2009年制作の民教協スペシャル「月が出たでた」お月さんた

ちの炭坑節」(全国放送)の制
炭坑節の「お月さん」は鹿児島

県与論島出身の炭坑労働者がモデルではないか、太陰暦を尊重してきた与論の人々にとって月は特別な存在だった。

与論島取材時に体験した洗骨(土葬して一定期間後に掘り返して洗い清めて埋葬するもの)の話など、十六夜の月を愛でる宵に相応しい講話となりました。

「日向かぼちゃの会」その後

木下 令子(MRT)

第129号「会員だより」で紹介させていただいた「日向かぼちゃの会」は活動を開始してまもなく1年になります。当初の目的は新規

女性会員獲得のほかに、ところが、思いのほか厳しい現実に向き合わざるを得ない状況に立たされていきます。ここで心折れてはならじと、方向転換することになりました。現女性会員でとにかく宮崎

のおいしいものを食べ尽くそうという試みです。宮崎県は地産地消の推進に力を注いでいます。「日向かぼちゃの会」は当分の間、宮崎を元気にするお手伝いをさせて

いただきます。ネーミングも宮崎の伝統野菜「黒皮かぼちゃ」からきているわけですから…。

第1回のランチ会は京料理のお店でした。食材にはもちろん地元野菜や魚をふんだんに使っていました。第2回目のお店では県内で養殖したヒラメがメインに、有機栽培の野菜とともにコース料理として提供されました。ここで初めて口にしたのが「ヒラメのカダイフ包み」という珍しい料理でした。糸状のパイに似た食感の衣でヒラメの切身を包んでソテーしたものです。

第3回ランチ会は11月にフレッシュレストランを予約。メニューに何が出てくるか楽しみにしているところです。

宮崎は農業だけでなく養殖業も盛んで、ブリ・カンパチ・マサバ・マダイ・ヤマメ・ヒラメ・チョウザメ・サーモンを生産していると新聞で読みました。これらを味わい尽くすと、楽しみは無限に広がります。

そのうち美味なる食べ物につられて新規女性会員が増えることも期待しつつ、活動を続けて行きたいと思えます。